



あゆみだより

令和7年度第2号
令和7年5月27日発行
沼津市立沼津高等学校・中部



5月14日(水)授業参観・PTA総会・学級懇談会にお越しいただいた保護者の皆様、ありがとうございました。
5時間目の授業を写真で振り返ってみます📷

授業参観フォトギャラリー📷



技術家庭(1A)



社会(1B)



公共(11HR)



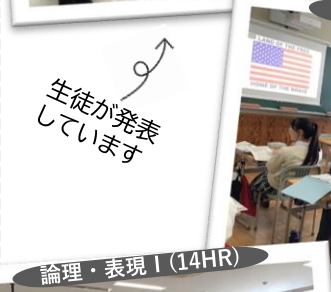
情報Ⅰ(12HR)



理科(2A)



社会(2B)



歴史総合(13HR)

生徒が発表
しています



音楽(3A)



理科(3B)



論理・表現Ⅰ(14HR)



数学(15,16HR)



体育(21~23HR)



遠すぎましたっ！
体育(21~23HR)



古典探究(31HR)



数学演習(選択)



論理・表現Ⅱ(24HR)



論理国語(25HR)



生物(選択)



国語表現(選択)



日本史探究(26HR)



書道Ⅲ(選択)



美術Ⅲ(選択)



介護福祉基礎(選択)

論理・表現は
英語の科目です

絵を通して『地域活性化・海洋ごみ問題・海洋生物との共生』に取り組む

海洋生物を中心とした絵画を制作し、国内外で個展を開催している13HRの鈴木翔太さん。その目覚ましい活躍ぶりは、様々なメディアでも取り上げられています。最近では…

5月2日(金) SBSテレビで紹介されました (<https://www.at-s.com/snews/article/ats/1710292.html>)

5月11日(日) 2025大阪万博「BLUE OCEAN DOME (ZERI JAPAN)」のパビリオン催事に参加

5月30日(金) 東京大学駒場キャンパスにて取組紹介

その他詳細はWebサイトやイン스타그램を御覧ください。



Q これまで、どのような活動をしてきましたか？

絵を通して海洋ゴミ問題の発信を行い、自分の絵等を販売した売上の60～30%を環境問題に関わる団体に寄付しています。(現在約71万円)

Q このような活動をするようになったきっかけや理由はどのようなものですか？

小学4年生の時に、サメの解剖を見た時、胃袋からマイクロプラスチックが出てきたのを見て、何かできないかと思い、海洋ゴミをテーマとした絵を描き始めました。



Q 今後はどのような活動をする予定ですか？

海底清掃や海岸清掃を行い、海洋ゴミを利用したアートを制作したいです。

Q 鈴木さんにとっての「おさかなアートクリエイター」の魅力を教えてください。

小学5年生のときに「おさかなアートクリエイター」をいただいたのですが、この名称のおかげで、自分が成長できたと思っています。これからも自分の得意な絵を通して活動したいと思います。

「世界の秘境で大発見！日本食堂 第23弾」 (テレビ東京 5月15日(木)放送)

56歳でオープン！インドで“日本のお母さん”と呼ばれる日本人が営む日本食堂

異国の地で奮闘する日本人の姿を追う人気シリーズの第23弾！今回の舞台はインド。56歳で日本食堂「あずき」をオープンし、現地の人々から“日本のお母さん”と親しまれている女性に密着しました。店主・後藤理恵さんは、**本校の卒業生(34期)**です。

異文化の中で日本の味を守り続けるその姿には、驚きと感動が満載。なぜ彼女はインドで食堂を開いたのか？どんな料理が現地の人々に愛されているのか？そして、彼女が届けたい“日本の心”とは？心温まるエピソードとともに、信念をもって自らの生き方を貫く日本人の姿が紹介されました。



●●●後藤さんの現在●●●

- ・インド南部の町ベンガルルールで和食店「あずき」を営む。
- ・開店は3年前、56歳の時。
- ・メニューは寿司、天ぷら、チャーシュー、きんぴら、日本式カレー、野菜ラーメンなど。
- ・和菓子も人気。大福、どらやき
- ・共同経営者のダヤさん(33歳)は日本で和菓子作りを修業。
- ・地方から出稼ぎにくる若者を雇い、日本食の職人に育てている。
- ・自宅アパートでは3人の従業員(家賃無償)とともに暮らす。



●●●なぜ、インドに？●●●

- ・大学卒業後、看護師に。最初に配属された部署が終末期医療。担当した患者さんが急逝。原因を調べるために解剖した後、見送りの準備を担当した。
- ・この経験から、「人間って何だろう」「生きるって何だろう」「人はどう生きるべきか」と深く考えるようになった。
- ・その答えを探すために、人の暮らしをたくさん見たくて、世界中を旅する日々が始まった。旅をしながら戻って看護師をして……7年間で約120か国！
- ・何度かインドを訪れるうちに、20年前、ある孤児院に出合った。そこには、30人ほどの壮絶な経験をした恵まれない子供たちが暮らす。この子供たちを助けたい！とインドへの移住を決意。
- ・IT企業に就職し、収入を孤児院に寄付。貯金を切り崩して生活。
- ・孤児のひとりが、ダヤさん。どうしても勉強したい！という希望を、後藤さんが出資して叶えた。ダヤさんはベンガルルール国立大学を首席で卒業。現在は夫、ふたりの子供と幸せに暮らす。
- ・ダヤさんは後藤さんへの恩返しを込めて、「あずき」を出店。

子供の未来を少しでも明るくしたい方へ。

みんなにチャンスがある未来であればいい。

思いやりをもてる子供は強い。

人とのつながりを喜びと感じられることが一番の幸せ。